

「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」における
非認知能力等に関する概念質問項目対応表について

令和5年5月
京都府教育庁指導部学校教育課

『京都府学力・学習状況調査 ～学びのパスポート～』における非認知能力の調査項目

質問調査の見直しの視点

- これまでの質問紙調査の成果
- 京都府としてはぐくみたい力
- 1人1台端末の活用を見通した設問数の適正化
- 府内の学校や先生方が分析・活用できるもの

府内の児童生徒や学校にとってより効果のある調査になるように、京都府独自の質問調査（質問項目）を見直し

非認知能力が指すものの曖昧さがあるので、府のはぐくみたい力を踏まえて検討

『京都府学力・学習状況調査 ～学びのパスポート～』における非認知能力の調査項目

非認知能力に関連する調査 35問程度

- 3つの力や「包み込まれているという感覚」はそれぞれに独立したものではなく、重なる部分も
- 下位概念も独立したものではなく、重なる部分もあると考えられることから、「○○力」といった言葉を使用していない

上位概念	下位概念
主体的に学び考える力	自己調整、学びに対する積極性、好奇心
多様な人とつながる力	他者と進んで関わろうとする態度、思考の柔軟性
新たな価値を生み出す力	目標に向けて取り組む姿勢、計画性、チャレンジ精神
包み込まれているという感覚	自分らしさの発揮、心理的安全性

（「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」解説動画より）

非認知能力に関する調査を
含む解説動画二次元コード



【非認知能力】

自己調整	学習等の過程に能動的に関わり、自己の認知活動や行動をコントロールしながら目標達成に向かおうとする姿勢
(30)	自分の考えた道すじをほかの人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。
(31)	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。
(32)	課題が終わったら、自分が学んだことを簡単にまとめている。
(33)	目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていっている。

学びに対する積極性	学びを広げたり深めたりするために自ら積極的に調べたり学んだりしようとする姿勢
(34)	学んだことをもっと理解するために参考書などをよく読む。
(35)	分からないところがあると本やインターネット、テレビなどをみたり人に聞いたりして調べる。
(36)	調べたいことについて納得がいくまで調べる。

好奇心	「知りたい」という欲求、物事を探究しようとする根源的な心
(37)	新しいことにとりくむときはワクワクする。
(38)	身の回りにあるいろいろなことに興味をもつほうだ。
(39)	「不思議だな」、「もっと知りたいな」と思うことがよくある。

他者と進んで関わろうとする態度	自ら前向きに他者と関わろうとする気持ちや態度
(40)	だれとでも仲よくできる。
(41)	人が困っているときは、進んで助けている。
(42)	はじめて出会った友達であっても自分から話しかけるほうだ。

思考の柔軟性	他者の考えを受け止め、自身の意思決定に柔軟に活かそうとする気持ちや態度
(43)	人の話をじっくりと聞くことで、自分の考えがまとまることがある。
(44)	自分の思いやしいことだけでなく、相手の思いやしいことも考えながら行動するほうだ。
(45)	自分の考えたことよりも、相手の方がよい考えを持っていると感じたときは、相手の考えを取り入れるほうだ。

目標に向けて取り組む姿勢	目標や達成すべき物事の実現に向けて前向きに取り組もうとする気持ちや姿勢
(46)	まわりが反対しても、自分ができると思ったらやってみる。
(47)	思ったことは実現したい。
(48)	難しいことでもあきらめなければ乗り越えることができる。

計画性	やるべきことの見通しをもち、それに従い物事を進め、達成しようとする気持ちや態度
(49)	いやなことを後回しにせず、やろうとする。
(50)	しなければいけないことの順番を決めて取り組んでいる。
(51)	はじめに目標やゴールを決めてから計画を立てるほうだ。

チャレンジ精神	困難な問題や未経験のことなどに積極的に取り組む気持ちや態度
(52)	失敗してもあきらめずに何度も挑戦するほうだ。
(53)	失敗をおそれず、前向きに取り組むほうだ。
(54)	なにごとにもまずはやってみようと思うほうだ。

自分らしさの発揮	自分自身に感じる自分の本当らしさ（自分らしさ）を大切にし、発揮できているという感覚
(55)	うまくいかなかったときでも、自分のことをきらいにならない。
(56)	まわりに左右されることなく、自分を出せるほうだ。
(57)	自分にはよいところがあると思う。
(58)	いつも自分らしくいられる。

心理的安全性	
(59)	普段の生活の中で、自分の考えを自由に話すことができる。
(60)	普段の生活の中で、自分がみんなとちがう意見や本当の気持ちを言っても、だれからも責められたり傷つけられたりする心配はない。
(61)	普段の生活の中で、ミスや失敗をしても、自分の話を聞いてもらえる。
(62)	普段の生活の中で、起こったトラブルについて、話し合える雰囲気がある。

【学習方法】

表層理解	
(63)	問題を解くとき、解き方はわからなくても、正解がわかっているだけでよい。
(64)	問題に取り組むとき、自分自身でいろいろと考えるよりも、正しい解き方や考え方をすぐに知りたい。
(65)	確信が持てずに解答し正解したとしても、答えは合っているので、それでもよいと思う。

リハーサル	
(66)	学習するときは、教科書や授業のノートやプリントなどの内容を覚えるようにしている。
(67)	授業の内容について分からないことがあっても、重要なことばや公式だけ覚えるようにしている。
(68)	学習するときは、ことばをくり返し読んだり書いたりして、覚えるようにしている。

体制化	
(69)	学習するとき、自分で考えたことをあらためてまとめなおしたりする。
(70)	学習するとき、教科書やノートやプリントなどを見直し自分で大切なことがらを見つけ出して、整理している。
(71)	学習したことをまとめるために、自分で簡単な絵をかいたり図や表を作ったりする。

精緻化	
(72)	学習するときは、教科書以外にも、辞書・図鑑・参考書・プリントなどいろいろなものを参考にして情報を集めている。
(73)	授業で新しく学習したことをこれまで学習したものと結びつけて理解したり、話合いで活かしたりしている。
(74)	ほかの教科の授業で学んだことであっても、教科に関係なく授業中の活動で活かしている。

主対深	
(75)	国語（算数・数学、英語）の授業では、ペアやグループになって自分の考えを言ったり友達の考えを聞いたりする機会がある。
(76)	国語（算数・数学、英語）の授業では、自分やグループの考えを友達に伝えるために工夫して発表する機会がある。
(77)	国語（算数・数学、英語）の授業では、これまでの経験で得たいろいろな知識を結びつけたり関連づけたりする機会がある。
(78)	国語（算数・数学、英語）の授業では、自分で疑問に思ったことを自分自身で調べたり、他の人に聞いたりする機会がある。
(79)	国語（算数・数学、英語）の授業では、自分の思いや考えをもとに答えを見つけ出すような課題に取り組む機会がある。
(80)	国語（算数・数学、英語）の授業では、授業の最後に自分自身の学習内容をふり振り返り、学習目標（学習のめあて）が達成できたかどうかを考える機会がある。